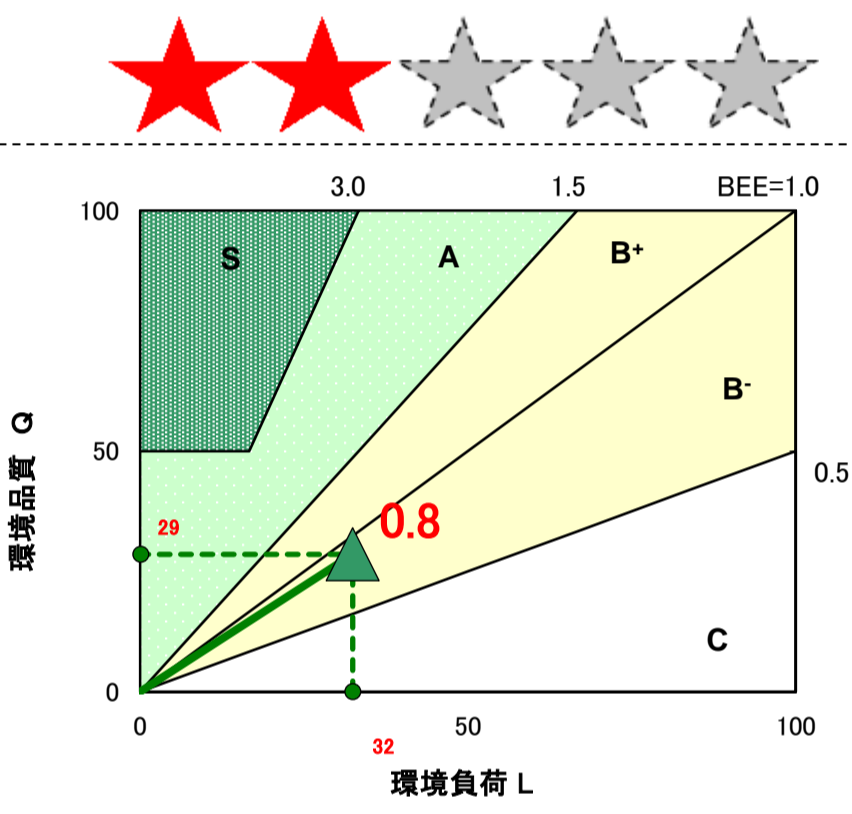


# CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	仮称 (株)牛嶋商運 甲佐倉庫	階数	地上1F		
建設地	熊本県上益城郡甲佐町大字系田夫	構造	S造		
用途地域	都市計画区域及び準都市計画区域	平均居住人員	15 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	2,720 時間/年		
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2021年10月 予定	評価の実施日	2021年4月9日		
敷地面積	9,437 m <sup>2</sup>	作成者	脇本		
建築面積	3,727 m <sup>2</sup>	確認日	2021年4月9日		
延床面積	3,727 m <sup>2</sup>	確認者	園田		

## 1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



**BEE = 0.8**

■ BEE(環境効率) =  $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$


■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub> 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能(ランク表示)




排出率

**61%**

## 2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価		評価点
		<b>72</b>
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	評価点	<b>92.5</b>
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	評価点	<b>43.7</b>
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	評価点	<b>60.0</b>
【重点事項4】 循環型社会の実現	評価点	<b>73.5</b>

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	仮称(株)牛嶋商運 甲佐倉庫	階数	地上1F
建設地	熊本県上益城郡甲佐町大字糸田夫	構造	S造
用途地域	都市計画区域及び準都市計画区域	平均居住人員	15人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,720時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年10月 予定	評価の実施日	2021年4月9日
敷地面積	9,437 m <sup>2</sup>	作成者	脇本
建築面積	3,727 m <sup>2</sup>	確認日	2021年4月9日
延床面積	3,727 m <sup>2</sup>	確認者	園田



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.8** ★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.1

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.3

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.6

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.5

### LR 環境負荷低減性

**LRのスコア = 3.7**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

### 3 設計上の配慮事項

#### 重点事項総合評価

評価点 = 72

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 92.5	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 43.7
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 60.0	重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 73.5

#### 重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
 仮称 (株)牛嶋商運 甲佐倉庫

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.1</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.30</b>			<b>2.3</b>
<b>1 音環境</b>						<b>1.8</b>	0.15			<b>1.8</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.40			
1.2 遮音						<b>1.0</b>	0.40			
1 開口部遮音性能						1.0	0.60			
2 界壁遮音性能						1.0	0.40			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音						<b>1.0</b>	0.20			
<b>2 温熱環境</b>						<b>1.7</b>	0.35			<b>1.7</b>
2.1 室温制御						<b>2.5</b>	0.50			
1 室温						3.0	0.38			
2 外皮性能						1.0	0.25			
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38			
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	0.20			
2.3 空調方式						1.0	0.30			
<b>3 光・視環境</b>						<b>2.2</b>	0.25			<b>2.2</b>
3.1 昼光利用						<b>4.2</b>	0.30			
1 昼光率		【事務所】9.22%				5.0	0.60			
2 方位別開口										
3 昼光利用設備						3.0	0.40			
3.2 グレア対策						<b>1.0</b>	0.30			
1 昼光制御						1.0	1.00			
3.3 照度						<b>3.0</b>	0.15			
3.4 照明制御						<b>1.0</b>	0.25			
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.7</b>	0.25			<b>3.7</b>
4.1 発生源対策						<b>4.0</b>	0.50			
1 化学汚染物質		建材・内装材F☆☆☆☆をほぼ全面使用				4.0	1.00			
4.2 換気						<b>3.0</b>	0.30			
1 換気量						3.0	0.33			
2 自然換気性能		【事務所】有効開口面積5.40㎡(1/15以上)				5.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮						1.0	0.33			
4.3 運用管理						<b>4.0</b>	0.20			
1 CO <sub>2</sub> の監視						3.0	0.50			
2 喫煙の制御		建物全体が禁煙				5.0	0.50			
<b>Q2 サービス性能</b>							<b>0.30</b>			<b>2.6</b>
<b>1 機能性</b>						<b>1.8</b>	0.40			<b>1.8</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>1.0</b>	0.40			
1 広さ・収納性						1.0	0.33			
2 高度情報通信設備対応						1.0	0.33			
3 バリアフリー計画						1.0	0.33			
1.2 心理性・快適性						<b>2.3</b>	0.30			
1 広さ感・景観		【事務所】CH=2.7m+窓				4.0	0.33			
2 リフレッシュスペース						2.0	0.33			
3 内装計画						1.0	0.33			
1.3 維持管理						<b>2.5</b>	0.30			
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保						2.0	0.50			
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.0</b>	0.30			<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.4</b>	0.30			
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		上位3種B以上を使用しEは不使用				5.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔		【事務所】パッケージ型空調機(15年) 【工場】消化ポンプ(20年)				4.0	0.20			
2.4 信頼性						<b>2.8</b>	0.20			
1 空調・換気設備						3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備						3.0	0.20			
3 電気設備						3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20			
5 通信・情報設備						2.0	0.20			

<b>3 対応性・更新性</b>				<b>3.4</b>	0.30	-	-	<b>3.4</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>				<b>5.0</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	【事務所】7.0m【工場】7.0m		5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	【事務所】比率:0.29 【工場】比率0.07		5.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>				<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>				<b>2.6</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性			1.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	<b>0.40</b>	-	-	<b>1.5</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>				<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>				<b>2.0</b>	0.40	-	-	<b>2.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				<b>1.5</b>	0.30	-	-	<b>1.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				1.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	-	<b>3.7</b>
<b>LR1 エネルギー</b>				-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.2</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			BPI <sub>m</sub> :0.67	<b>5.0</b>	0.00	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>				<b>3.0</b>	0.12	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>			[BEI][BEI <sub>m</sub> ] = 0.25	<b>5.0</b>	0.62	-	-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>				<b>3.0</b>	0.25	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価				<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 水資源保護</b>				<b>3.8</b>	0.20	-	-	<b>3.8</b>
<b>1.1 節水</b>			泡沫水栓、節水型機器	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>				<b>3.7</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	生活用水に井水の利用		4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				<b>2.6</b>	0.60	-	-	<b>2.6</b>
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			-	1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			躯体と仕上材が容易に分別可能(軽鉄下地)	4.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				<b>3.7</b>	0.20	-	-	<b>3.7</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用				<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				<b>4.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	断熱材:GW10k使用		5.0	0.50	-	-	
3	冷媒			3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			ライフサイクルCO2排出率:61%	<b>4.5</b>	0.33	-	-	<b>4.5</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>				<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
2.1 大気汚染防止			燃焼機器不使用	<b>5.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				<b>2.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				<b>3.2</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	・駐車スペース・駐車施設の確保 ・導入路への配慮(出入口9.35m) ・荷捌き車両の駐車スペースの確保		4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>				<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音			3.0	1.00	-	-	
2	振動			-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制			1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				<b>3.7</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインについて配慮事項の一部を満たしている+広告物照明の過半を満たす		4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

# CASBEE® 熊本《新築》【 配慮事項 】

## 4 設計上の配慮事項

### 総合

道路から50m近く離れた位置に建物を配置し、周囲に対して騒音、臭気の影響があまり無いよう配慮した

### Q1 室内環境

F☆☆☆☆建材を使用

全館禁煙とし、施設内の空気質環境に配慮

### Q2 サービス性能

階高にゆとりをもたせ、建物自由度を高めた

設備機器はメンテナンス動線を確保した計画とした

### Q3 室外環境（敷地内）

外装材は彩度を落としたデザインとし、周囲への太陽光の反射やグレアの軽減を図り、景観にも配慮した

### LR1 エネルギー

照明器具はLED照明とし、高効率化を図った

### LR2 資源・マテリアル

ハロン消火剤を使用しない

### LR3 敷地外環境

騒音の原因となる機械室(ポンプ室)の開口部を水路側とする事で、周囲への影響を極力抑える計画とした

### その他

## 熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 仮称 (株)牛嶋商運 甲佐倉庫

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点	72	
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				92.5	0.40	37.00
Q1-2.1.2	外皮性能	1.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	1.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				43.7	0.20	8.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	1.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	1.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				60	0.20	12.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	4.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				73.5	0.20	14.70
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.4	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

## ■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

## ◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

## ◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数